

# 見えない障害

長生村立長生中学校 三年 馬場 千晴

皆さんは、「自分は人と違う」「どこか普通ではない」という感覚をもったことがありますか。私は何度も感じたことがあります。

小学校時代、私は気がつくやうに、一人ぼっちになっていました。一人で過ごすことは気にしていませんでしたが、周りからの言動や行動で傷つくことは、数え切れないほどありました。

小学校二年生の夏。ひとりで読書をしていたときのことで。クラスメイトの男の子が、突然ぶつかってきました。ずらされた机を直し、再び読書に戻ろうとしたとき。

「うわー、お前、あいつにさわったのかよ。」陰湿な笑い声と、その言葉に、私の頭の中は真っ白になりました。読書になんて集中できるはずがありませんでした。

それから、一年の時が流れ、相変わらず一人で過ごす日々が続いていたある日。はっきりと嫌がらせだとわかるようなことがありました。ゴミ箱に私の鉛筆が捨てられていたのです。

正直、その後どのように感じたのかよく覚えていません。ただ、「どうして？」その疑問だけが頭を埋めつくしていました。周りから悪口を言われていたかもしれません。

でも、人の感情に鈍感な私は、それに気づくことはできませんでした。なぜ、周りから嫌われているのかわからないまま、私は、その小学校を転校しました。

中学生になり、なんとなく周囲とかみ合わない日々は、続いていました。自分がよかれと思って言ったことで、クラスメイトが反応に困っていたこともあったかもしれません。

中学生一年生の終わり。私は、母の勧めで発達検査を受けました。検査結果のグラフを見て、私はこのとき初めて自分の得意なこと苦手なことに偏りがあることを知りました。私は、それまで自分の「当たり前」が、無意識に人に不快な思いをさせていることに気づいていなかったのです。私の場合、文字や情報を聞き取るのは突出して得意であるのに対し、周りの情報を推測する力、俗に言う「空気を読む力」が平均より弱い傾向にありました。「私が長い間悩んでいた原因はこれだったのか。」私は、その場ではっきりと障害であると言われたわけではありませんが、そのグラフからは、発達障害の傾向がある

ことが読みとれました。その結果を聞いたとき、なぜか心がスッと軽くなった自分がいたことをよく覚えています。

発達障害を持つ人は、生まれつき脳の発達に偏りがあります。外見では全くわからない障害です。周りの環境や人々とのミスマッチから、普段の生活すら息苦しさを感じている人が大勢いることがわかっています。

平成二十四年度の厚生労働省の調査によると、行動面や学習面で困難を感じている生徒は全体の約六・五％。その人たちは、周囲の反応や言葉に何も感じていないようにみえても、実際は言われた言葉に傷つき、どうしたらいいのかわからず、困っています。本当にわかりにくい、でも周りから見れば、確かなズレ。大人になり、社会にうまく適応できず、精神的な不調をきたし、自殺にまで追いこまれる人もいます。皆さんの周りに、そのような人がいたら、どうしますか。仲間はずれにしますか？傷つけるような言葉をかけますか？どうか「アイツはどこか変わっているから。」なんて理由で突っぱねないでください。その人の話を聞き、「これはやめてほしい。」と具体的に伝え、歩み寄ってもらいたいです。

また、もし私のように「自分は人と違うのかもしれない」と悩んでいる人がいるなら、今からでもできることを探してはみませんか。自分の苦手なことを受け入れるのは、すごく大変なことです。でも、自分自身を理解することで、心が軽くなり、やるべきことがみつかることもあると、私は思います。私自身も、これからも自分のことを理解して、周りと上手に付き合える方法を、探していきたいです。

自分の周りの世界は、自分一人の力で作っていくものではありません。また、相手だけの力で作っていくものでもありません。互いを理解し合い、みんなで作っていくものだと、私は考えています。